

★2年前の新型インフルエンザとは、桁違いに高い毒性です。

強毒「H5N1」インフルエンザ

世界の科学者や国連組織が警鐘を発しています！

- ① 鳥インフルエンザH5N1に変異株発生
- ② 渡り鳥の繁殖地シベリアにH5N1定着の可能性
- ③ 豚に感染⇒ハンデミック発生の可能性高まる

(大流行)

(日本国もワクチンの製造体制に1,000億円交付金決定)

煽るわけではありません。前回の新型インフルエンザがあまりにも軽かったため、国民の中に「妙な安心感」が出たと言われています。本資料は、この1ヶ月間の動きのペーパーです。大地震発生の可能性だけではなく、重篤なハンデミック発生の可能性も直視し、その対策を行いましょ

H5N1 型 鳥インフルエンザ

2011年08月31日 | Weblog AFPBBNEWS

「中国とベトナムで H5N1 型鳥インフルの変異株、日本におよぶ恐れも FAO」

(http://www.afpbb.com/article/life-culture/health/2823186/7694708?utm_source=afpbb&utm_medium=topics&utm_campaign=txt_topics)。<以下引用>

<国連食糧農業機関 (Food and Agriculture Organisation、FAO)は 29 日、中国とベトナムで強毒性の鳥インフルエンザウイルス (H5N1 型)の変異株が確認されたことを明らかにし、鳥インフル再流行の可能性があると警告した。FAO によると、中国とベトナムで発見された H5N1 型の変異ウイルスは「H5N1 - 2.3.2.1」として知られているもので、既存のワクチンが持つ予防力を回避できるという。ベトナムにおける変異ウイルスが広がれば、近隣国のカンボジアやタイ、マレーシアだけでなく、朝鮮半島や日本にも危険が及ぶ可能性があるうえ、渡り鳥が媒介役となって、アジア以外の地域にもウイルスが拡大する恐れがあると、FAO は警鐘を鳴らし、2009 年のような鳥インフル大流行の再来の可能性に、万全の備えとウイルスの監視強化で臨むよう呼びかけた。世界保健機関 (WHO)によると、感染力の強い H5N1 型のウイルス株が初めて確認されて以来、これまでの感染者は 565 人で、このうち 331 人が死亡している。FAO によると、最も直近の死亡例は今年、カンボジアで確認されており、今年に入ってから 8 人が感染し、その全員が死亡している。カンボジアのほかにも、最近ではブルガリア、イスラエル、モンゴル、ネパール、パレスチナ自治区、ルーマニアで鳥インフル感染が確認されている。(c)AFP>

高病原性鳥インフルエンザ海外報道抄訳集抜粋

News 2011年8月

<http://panflu.world.coocan.jp/jyouthou/BIRDFLU/2009/8tuki.html>

Bird flu deaths in Asia prompt call for scrutiny Fox 31 KDVR.com (米国)

アジアにおける鳥インフルエンザ死者の増加は早急な精査が必要:香港専門家 香港(ロイター)

香港のウイルス専門家達は、現在中国とベトナムで拡大している H5N1 変異株に対して従来のワクチンが無効であるとして、家きんと野鳥における監視を強化し、人への感染拡大を阻止しなければならないと警告している。

専門家達の警告は、29 日に国連の FAO が鳥インフルエンザの(鳥における)再流行と、H5N1 ウイルスの変異株がアジアを越えて拡大する危険性を声明文で発表した後に発せられた。

新型株 (H5N1-2.3.21) が人に対してより病原性が高いかについては専門家達は定かではないとしているが、これまで作成されてきた人のワクチンには無効の可能性が高いという。

「WHOが推奨した人用の H5N1 ワクチンがあるが、多分、それらは十分効果はもたないだろう」と香港大学の指導的ウイルス専門家であるマリク・パイリス氏 (Malik Peiris) が語っている。

「しかし、この事実は必ずしも通常起きえないことではなく、H5 ウイルスは絶えず変化しているので、我々はワクチンに用いる対象株を変える必要がある」と付け加えた。

WHOは年 2 回、2 月と 9 月に専門家会議を開き、ワクチン株について討議している。

H5N1 に人が感染すると 60%が死亡する。この数ヶ月 H5N1 は再流行しはじめているが、それはカンボジアで顕著で、今年 8 人が感染して全例が死亡している。

「カンボジアでの感染者は非常に死亡率が高いが、それは発見が遅いからである」とパイリス博士はインタビューでコメントしている。

「この変異株が必ずしも人に対して、より病原性が高いことを示してはいない。しかし、それが世界的に拡大していることは脅威的である」と同博士は結論している。

8月30日

鳥インフルエンザ 変種、FAO が再流行を危惧

UN Agency Warns About Resurgent Bird Flu MedPage Today (国際)

国連機関、鳥インフルエンザの再流行を警告

(家きん用)ワクチンに耐性の新型 H5N1 鳥インフルエンザがベトナムと中国に拡大し始めており、人への危険性も予知し得ない状況にあると、FAO (国連食糧農業機関)が、29 日、声明を発表した。新型株は H5N1-2.3.2.1 として知られている、と FAO は説明している。

家きんにおける流行は 2006 年がピークで、それ以降感染家きんの殺処分で減少に転じ、感染家きんが報告される国は限定的となった。

しかし FAO によると感染家きんの数は増加に転じはじめ、2010 年 1 月以来家きんの発生件数は 800 件に近いとされる。2008 年は 300 件であった。

最近の新たな感染地域は、イスラエル、パレスチナ、ルーマニア、ブルガリアとされる。

FAO warns on mutant bird flu in China and Vietnam Gulf Today (アラブ首長国連邦)

FAO、中国とベトナムにおける変異鳥インフルエンザの拡大を警告

ローマに本部がある FAO (国連食糧農業機関) は、29 日、中国とベトナムに致死性的 H5N1 ウイルスの変異株が広がっており、鳥インフルエンザの大きな再流行の可能性があると警告した。

同機関は変異ウイルスは、これまで使用されてきたワクチン(家きん用)は無効であることを懸念しており、新型株は H5N1-2.3.2.1 として知られていると付け加えた。「ベトナムにおけるウイルスの拡大は、カンボジア、タイ、マレーシアに直接的脅威となっているが、さらに韓国と日本にも危険性を及ぼす可能性がある」、と同機関の声明文ではコメントし、ウイルスは渡り鳥でアジアを越えて広がる可能性も伝えている。

WHOによると致死性的 H5N1 ウイルスにより、これまで世界で 565 人が感染し 331 人が死亡したと報告されている。

FAO によると最新の死者は今月初めにカンボジアで報告されたが、今年度 8 例目となり、また今年度の感染者は全て死亡している。 [FAO 発表原文](#)

9 月 18 日

Robert Webster: 'We ignore bird flu at our peril' The Guardian (英国)

ロバート・ウェブスター:

世界は鳥インフルエンザの危険性を命がけで無視している

米国の聖ユダ小児研究病院のインフルエンザ研究者の頂点に立つロバート・ウェブスター博士へのインタビューを交えた、鳥インフルエンザの危険性に関するレビュー。

国連(FAO)が新たな警告を発すると共に、ハリウッドがパンデミック映画を作製して、鳥インフルエンザが再びニュースとなる機会が増えている。我々は 50 年前に世界で初めてパンデミックを警告し、そして現在再び警告している人物に会い、色々話を聞いた。

スチーブン・ソーダーバーグ監督によるパンデミックスリラー”Contagion”で、最終場面まで、パンデミックを起こしている病原体の正体は明らかにされない。それは豚肉由来か、それとも CDC の高官がどのように、全ては鳥由来なのか？

最終的にソーダーバーグ監督は、豚と鳥両者が病原体拡大に関与していることを匂わせ、病原体は鳥インフルエンザウイルスとニパウイルス(コウモリが介在するマレーシアの豚農場におけるウイルス感染症。人に感染すると脳炎を発症。[詳細](#))のハイブリッドであることを示唆している。映画上のシナリオであるが、この仮説は実際に脅威的事実として存在している。

ロバート・ウェブスター博士は以下のように語っている。「私は未だ映画は見えていないが、鳥インフルエンザは潜在している現実的殺人的感染症である」同博士は世界の最も卓越した鳥インフルエンザに関する専門家であるが、オックスフォードからマルタ島まで相次ぐ会議に参加する過程でインタビューに応じてくれた。

「自然は人に感染すると 50%を死亡させるウイルスが存在している事を示しているが、世界は自己責任でそれを無視している」。それは”鳥インフルエンザの教皇”と呼ばれるウェブスター博士が 50 年前から警告してきたことである。

当初は懐疑的に周辺から考えられていたが、最近では尊敬の念で信頼感が増している。ウェブスター教授の安眠を妨げるほどに気にかけているのは H5N1 ウイルスである。

H5N1 鳥インフルエンザは 1997 年に初めて人に感染し、16 人に感染して 6 人が死亡した。(訳者:正しくは 18 人が感染)。その後 2003 年にタイとベトナムの養鶏場で再流行し、さらにアジア中に広がった。2005 年には中東から東欧へも広がった。

2009 年に H1N1 豚インフルエンザが流行し、WHO はパンデミック宣言した。「この 2009 年のパンデミックは、我々にとって非常に幸運だった。自然はウイルスの中に人に対する致死性的遺伝子を加えていなかった」ウェブスター博士はそのようにコメントしている。しかしながら博士は同時に H5N1 の脅威は去っていないことを主張している。

むしろ最近の科学的データが正しければ、新規変異株、コード名”2.3.2”は中国とベトナムから中央アジア、東欧へ渡り鳥で運ばれている、と博士は説明する。

一方、H5N1 のホットスポットであるエジプトでは、家きん飼育場で他の変異株が流行し、有意な数の感染死を人の間に起こしている。

博士によると、今月初めにオックスフォードの聖ヒルダ大学で行われた国際会議で、”H5N1 鳥インフルエンザは渡り鳥によりユーラシア大陸全体に広がっている可能性があり、アメリカ大陸に入って来るのは時間の問題である”と語られたという。

今年 79 歳になるウェブスター博士は、ニュージーランドの農場で育ち、その後人生の半分を鳥インフルエンザの研究で費やしてきた。米国メンフィスの聖ユダ小児研究病院の感染症部門で、世界で唯一の人獣インフルエンザ感染研究を主宰している。無数の鶏卵を使用してワクチンの研究を行い、そして多くの専門家を育成してきた。

イタリアのパドヴァにある、世界動物保健機関の国立協力機関のカプア長官は次のようにウェブスター博士を評している。「世界は博士に大きな借りがある。多くのことで彼はインフルエンザの父であり、また母でもある」

ウェブスター博士は中国やバングラデシュ、そしてインドネシアなどの鳥インフルエンザのホットスポットを訪れて調査に明け暮れてきた。同博士は世界で最初に、水棲渡り鳥がインフルエンザウイルスの自然宿主であることを見いだしている。

中略

豚インフルエンザで約 18000 人が世界中で死亡したが、それは米国で毎年季節性インフルエンザで死亡する数の半数に過ぎなかった。こうした事実はパンデミック・インフルエンザの脅威に対する懐疑的見方がこれまでになく高くなっている。

「現在、(米国の)政治家達は(鳥)インフルエンザに対して関心を抱いていないが、誰もそれを非難できない。

誰も死んでいないからだ」と同博士は言うが、続いて次の様にコメントしている。「しかし、米国に鳥インフルエンザウイルスが入って来るならば、早急なるワクチン接種の必要性に社会は気づくことは間違いない」。

ウェブスター博士によると、それ(H5N1 がパンデミックになること)は時間の問題だという。2003 年以来 H5N1 ウイルスは世界で 565 人を発病させ、331 人を死に至らしめた。実に致死率は 60% に近い。またそれは世界で 4 億羽以上の家きんを殺すか、殺処分しに追い込み、200 億ドル以上の経済的損失を起こしている。

先月 FAO (国連食糧農業機関) は、6 歳のカンボジアの少女が鳥インフルエンザで死亡し、本年度同国で 8 人目の死者となった報告の後、世界に警戒体制の強化を促した。

同時に FAO は最近鳥インフルエンザが発生していなかった地域でも H5N1 ウイルスが、渡り鳥に運ばれて拡大してきていることを報告した(イスラエル、パレスチナ、ブルガリア、ルーマニア、ネパール、モンゴル)。しかしながら FAO が最も警戒しているのは、中国とベトナムで拡大している変異株、2.3.2 で、渡り鳥でさらに拡大する可能性が高いとされる。

ウェブスター博士によると、2.3.2 変異株は未だ未熟であり、むしろエジプトの養鶏場で土着している 2.2.1 株の方が心配であり、既に今年に入ってから 32 人が発病し、12 人が死亡しているという。

またバングラデシュにも問題があり、他の鳥インフルエンザウイルス H9N2 が生きた家きん市場に土着しているという。

厚生労働省がそれぞれの領域内で監視を続けるだけでなく、内閣官房(新型インフルエンザ等対策室)を核にした継続的で総括的な監視体制を強化すべきではないだろうか。

表 1 野鳥で確認された高病原性鳥インフルエンザウイルス H5N1 の検出例(環境省より)

| 公表日 (環境省) | 回収場所 | 野鳥 | ウイルス亜型 ・タイプ | 確定検査 |
|--------------|-----------------------------------|------------------------|----------------|-------|
| 3月25日 | 島根県国指定宍道湖鳥獣保護区周辺 | キンクロハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 3月12日 | 青森県三沢市米軍基地内 | ハヤブサ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 3月8日 | 島根県の国指定宍道湖鳥獣保護区 | キンクロハジロ1羽、ホシハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 3月2日 | 兵庫県西宮市 | カンムリカイツブリ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 3月1日 | 長崎県長崎市 | オシドリ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月22日 | 大分県大分市 | アオサギ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月22日 | 京都府相楽郡精華町 | ハヤブサ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月22日 | 宮崎県日南市、延岡市 | オシドリ1羽、ハヤブサ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月21日 | 北海道・国指定厚岸・別寒辺牛・霧多布鳥獣保護区(北海道厚岸町奔渡) | オオハクチョウ・幼鳥1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 2月21日 | 栃木県宇都宮市 | ハヤブサ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 2月20日 | 長崎県諫早市 | ハヤブサ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月20日 | 大分県大分市 | オシドリ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月20日 | 宮崎県宮崎市 | ハヤブサ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月17日 | 大分県中津市耶馬溪町 | オシドリ3羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月17日 | 宮崎県諸塚村 | カイツブリ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月17日 | 徳島県那賀郡那賀町 | フクロウ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月15日 | 福島県福島市宮下町 | コハクチョウ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 2月12日 | 山口県宇部市 | キンクロハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月12日 | 宮崎県延岡市北側町、西都市穂北 | オシドリ1羽、ハヤブサ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月8日 | 北海道・国指定厚岸・別寒辺牛・霧多布鳥獣保護区周辺 | オオハクチョウ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 2月6日 | 長崎県長崎市 | オシドリ2羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 2月1日 | 北海道・国指定厚岸・別寒辺牛・霧多布鳥獣保護区周辺 | オオハクチョウ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 2月1日 | 鳥取県米子市 | ユリカモメ1羽、キンクロハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 1月31日 | 福島県郡山市(豊田町浄水場) | キンクロハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 1月28日 | 兵庫県伊丹市(瑞ヶ池) | ホシハジロ1羽、カイツブリ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 1月25日 | 島根県松江市・国指定宍道湖鳥獣保護区 | キンクロハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |
| 1月23日 | 北海道・国指定厚岸・別寒辺牛・霧多布鳥獣保護区 | オオハクチョウ2羽、カモ1羽、オナガガモ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 1月22日 | 北海道・国指定厚岸・別寒辺牛・霧多布鳥獣保護区 | オオハクチョウ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 1月21日 | 福島県郡山市(豊田町浄水場) | キンクロハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 1月20日 | 福島県郡山市(豊田町浄水場) | キンクロハジロ1羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 1月19日 | 福島県郡山市(豊田町浄水場) | キンクロハジロ2羽 | H5N1・強毒 | 北海道大学 |
| 1月12日 | 鹿児島県出水市 | ナベヅル(計6羽) | H5N1・強毒 | 鳥取大学 |

9月28日(水)

[Five easy mutations to make birdflu a lethal pandemic](#) New Scientist (国際)

鳥インフルエンザウイルス、単純な変異5回で致死性的パンデミックに

H5N1 鳥インフルエンザウイルスは人を殺す能力を持っているが、容易に人の間で感染しないためパンデミックを起こすまでになっていない。しかしそうした状況は変化するかも知れない;二つの遺伝子で5回の変異が起きることでほ乳類の間で感染が拡大することが実験室で確かめられた。そのような変異を起こしても、ウイルスは極めて致死性であった。

「(変異)ウイルスは季節性インフルエンザの様に効率良く感染する」と、オランダ、ロッテルダムのエラスムス医学センターのロン・フォイチャ

ー(Ron Fouchier)氏が、先週マルタで開かれたインフルエンザに関する科学会議で発表した。1996年にウイルス免疫学の業績でノーベル賞を受賞したピーター・ドハーティ氏(Peter Doherty)は、今回の研究成果に関して以下のように語っている。「今回の研究結果は、H5 ウイルスの変異により、人に感染して深刻な状態を起こす可能性があることを明確に示している。それは極めて恐ろしいことだ」

H5N1 ウイルスは2004年以來、東南アジアで変異してユーラシア大陸を越えて広がった。その間、565人が感染し、331人が死亡した。しかし、無数の鳥に感染し、さらに人やネコ、豚にも感染しているにも関わらず、ほ乳類に容易に感染するようになった変異株は未だ出現していない。ほ乳類に容易に感染する変異株の作成は実験室で成功してなく、ウイルス学者の中には H5N1 ウイルスは簡単にそのような変異は起こさないと考えている人もいる。

フォイチャー氏達の研究では、最初にウイルスに三つの変異を起こさせ、フェレットに容易に感染する変異株を作成した。(フェレットは人と類似の様式でウイルス感染を起こす)。しかしながら出来たウイルスはフェレット間で感染を起こさないため、ウイルスをフェレットに、より適合させるため感染を繰り返させた。そして10回の感染の後に(感染フェレット→健康フェレット:の繰り返し)、**フェレット間で容易に感染する変異ウイルスが誕生した**。変異ウイルスは別のケージ内のフェレットに感染して、全てを死亡させた。

ウイルス遺伝子変異は3箇所は人為的に起こしたが、残りの2箇所はフェレット内で起きた。全ての変異は H5N1 ウイルス内で起きた。香港大学のウイルス学者のマク・バイリス氏は、豚のようなほ乳類を介さなくても、H5N1 ウイルスは鳥の中でも容易に変異して人に感染するようになる可能性を示している、とコメントしている。

ニューヨークのマウント・シナイ医学センターのインフルエンザ専門家であるピーター・パレーゼ氏は、H5N1 ウイルスがほ乳類に適合することが出来るという考え方に懐疑的である。「フェレットは人ではない。H5N1 ウイルスは長期間存在してきた。しかし人の間で感染するような変異は未だ起きていない」

1918年のスペインインフルエンザの研究で知られている米国衛生研究所(NIH)のジェフェリー・タウベンバーガー(Taubenberger)氏は、次の様に反論している。「**未だ人に適合していないことは、ウイルスが適合出来ないことを意味してはいない**」「**単にこれまで適合していないことを意味するだけで、我々が幸運であっただけである**」

H5N1ウイルス変異と人への感染性に関しては多くの研究が為されている。…全ては試験管内の話である。

自然界における変異の様式と、その可能性は理屈を越える。多くの鳥の間での感染が続き、その過程で変異ウイルスが誕生する可能性。確率的には非常に低くても、ウイルスの鳥間での感染、そして細胞内での遺伝子複製、ウイルス粒子増殖は無限回起きている。

100万回、いや1億回のウイルス遺伝子複製の過程で無数の複製ミスが起き、そうした中から1コの人人感染する粒子が誕生したなら、ウイルスはハンデミックを起こす可能性が高い。

周辺の豚への感染、さらには人への感染。

そうした中でどの程度の変異が起きているかは予知出来ない。すなわち人人感染を起こすウイルスの誕生の有無を疫学的に把握することと、分離ウイルスの遺伝子分析で知るしかない。正しく米国NIHのタウベンハーガー博士の言うごとく、「単に(ウイルスが人に)これまで適合してないことを意味するだけで、我々が幸運であっただけである」と表現するのが正しいかも知れない。

いつ不運が訪れるか、その可能性を科学的分析で予測が可能なのか、そこが問題ではある。
自然界の中でのウイルスの変異の実態は、どの程度科学的に把握が可能か?

いれにしても重篤なハンデミックに備えなければならないことは当然である

次回の大地震発生の可能性よりは、重篤なハンデミック発生の可能性の方が数十倍以上高いのである。

以上